

やすらぎ園縮小計画が存在した

やすらぎ園の定員は100名ですが、現在は入園者を70名程度に制限しています。介護職員の退職補充ができていないためとされていますが、町では、やすらぎ園の定員を次のように変える計画を持っていました。

- ① 特養（多床型）として50名
- ② ケアハウスとして30名
- ③ 寝たきり等の20名は町立病院へ

介護職員不足を理由に着々と縮小

この計画は、病院との協議が整わず見送られました。しかし、入園者制限の理由を介護職員不足のためとしながら、結果的に縮小計画を着々と実行していることとなります。

高齢者は切り捨てられるのか

また、老朽化の著しい駒が丘荘は、廃止する予定でした。入居者は、やすらぎ園内のケアハウスと町営住宅に移すという計画でした。①の定員削減は、高齢者の人口がピークを超えるとの推計が根拠。③については、町立病院内に「介護医療院」の開設が必要でしたが、実現しませんでした。駒が丘荘入居者が町営住宅に入居する

と、家賃が高くなります。また、廃止予定であった駒が丘荘に2千万円を投じ、暖房設備等を改修しました。このように本町の老人福祉施策には矛盾が多く、実態に即していません。

地元で老後を過ごしたいのに…

介護や看護が必要な町民の町外転出が常態化し、家族の経済的負担が増していることも看過できません。なぜ家族の近くで、あるいは故郷で老後を過ごせないのか。誰もが必ず通る道なのに、あまりにも狭く険しい…。それが標茶町の現実です。



高齢者の声

・やすらぎ園を早急に改修して、入園者と働く人の環境を整えてほしい。
・やすらぎ園で介護職員が減ったため、入園者の定員が100名のところ80名も入れていない。自分も利用すると思うと不安でならない。

・やすらぎ園の介護職員について、待遇を改善すれば働く人も増えるし、入園者も満度に受け入れられるのではないかと。

・入園者が減っても、やすらぎ園のランニングコストはあまり変わらない。100名の定員を満たせば赤字が減るのではないかと。

（標茶町議会だより、標茶町議会議事録、懇談会での意見から）

町民の老後も快適な職場も大事

100床中50床をユニット化（個室化）、移転新築しユニット化する、いずれも国の補助金制度があります。新築でも町の負担は4億程度か。「得意の」有利な借金（起債）をすれば、負担は実質1億未満では…。